

展示物紹介

アカボシゴマダラ

アカボシゴマダラは、国内では奄美群島にしか分布していないチョウでした。しかし、1995年に神奈川県で放された中国産のアカボシゴマダラが定着し、東京都や埼玉県などで分布を広げています。幼虫はエノキの葉を食べますが、以前から棲んでいたゴマダラチョウも同じ食草なので、競争が心配されます。展示では中国産と奄美大島産の違いを示し、比較できるようにしています。鹿児島県にこの外来種が来れば、将来交雑してしまい、奄美大島の貴重な種類が一つ消えてしまうかもしれません。持ちこんだ生きものを野外に放すのは、大きな危険を伴うのです。



本館2階・ディスカバリールーム

ボランティア募集

博物館の活動では、ボランティアの方々の協力が欠かせません。5月20日(日)に行う「博物館まつり」のようなイベントや、土曜日・日曜日の楽しい実験、展示案内、そして標本や資料の整理などさまざまな場面で支援をいただいています。

博物館にはボランティア組織として中・高校生ボランティア、博物館友の会があります。また、大学生や一般の方など個別に活動している方には、ご自分でできる範囲で博物館活動のお手伝いをお願いしています。

博物館がどんな活動をしているのか知りたい方、これまでの経験を生かしたい方、ボランティアに参加しませんか。詳しいことにつきましては、当館学芸室にお問い合わせください。

学芸室の窓から

玄人好み!?

目立つ花で、かわいらしいとか美しいという理由で、「サクラ」や「ユリ」、「バラ」などを好きという人は多いですね。確かに、春と言えばサクラでしょうし、花屋にいくと大きな花びらをもつユリが並んでいて目をひきます。「誕生日にはお花がほしい」と言えば定番は真っ赤なバラでしょうか。でも、庭や公園、学校の校庭などで見かけるオヒシバやメヒシバが好きという人はまずいないでしょう。「こんな雑草、生えてこなければいいのに」なんて目の敵にしている人が圧倒的に多いかもしれませんね。

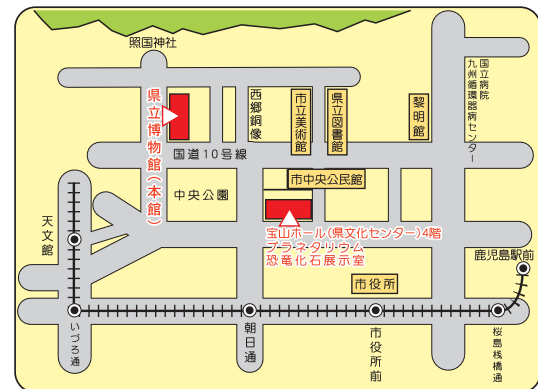
しかし、野外において、イネ科やカヤツリグサ科など目立たない花をもつ植物を探したり、調べたりするのも結構楽しいものなんです。花が目立たないため、花粉をたくさん作ったり、めしべの先がブラシのようになっていたりして、受粉の確率を上げるような仕組みをみると、なかなかおもしろいと感じます。人が見向きもしないものを調べていると、ある新聞記者の方が、『玄人好みですねえ』とおっしゃいました。うーん、玄人好みと言うよりは『単なる物好き』

なのかもしれません。めげずにこれからもルーペをもって楽しく観察していきます。



クロヒナスゲ

●鹿博だより 編集・発行 鹿児島県立博物館
 〒892-0853 鹿児島市城山町1番1号
 TEL099-223-6050 FAX099-223-6080



ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/hakubutsukan/>



金色! ? のツチガエル

昨年7月に博物館にやってきた「金色のオタマジャクシ」は、成長し立派なカエルになりました。これは体の色をつくるための遺伝子が正常に働かなくなったアルビノと呼ばれる個体です。皮膚の色素がないために、血液の赤い色が透けて見えるので、目は赤く体は黄色味がかって見えます。

入館料は?

館長 山下和則

鹿児島県立博物館は、昭和28年3月に発足し、現在閉館となっている考古資料館で業務を開始しました。昭和56年1月からは旧県立図書館を改装し、総合博物館として再出発しました。昭和56年からの延べ利用者数は、平成14年1月に300万人、今年中には400万人を達成する見込みです。これもひとえに県民の皆様のおかげと感謝いたしております。

ところで、前任地で生徒たちから「博物館ってどこにあるの? みんなで来るから、無料にしてね。」とか、つい最近でも、入館された方から「『入館料はいくらですか』と受付の方に尋ねました。」と話されることがありました。

博物館の入館料については、博物館法という法律の第二十三条に「公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要

な対価を徴収することができる。」と書かれています。

当館では当初からこの博物館法に則って業務をしておりますので、入館料は無料となっております。当館の玄関には約30センチ四方の白い板に赤い文字で表示しているのですが、意外とこの表示に気づかれない方がいらっしゃるようです。ただ、宝山ホール4階にあるプラネタリウムの投映に関しましては、機器の維持補修のため、有料となっております。恐竜・化石の展示室については、本館同様無料で観覧できます。

入館料無料の博物館は、そう多くはありません。天文館等での買い物や近くで行われる催し物に参加されたり、また、文化ゾーンの他の施設を観覧されたりしたついでに、博物館にも来ていただいて、鹿児島南北600kmの自然のすばらしさに触れてみてはいかがでしょうか。